



オーギュスト・ロダン《三体の人物像のある門(レリーフ)》

### 寄贈者のことば

私が好きで、多年にわたりコレクションしました彫刻と絵画を、一人でも多くの方々に鑑賞していただきたく思い、私ども夫婦の出生地である新潟県内にその適地を求めるとにいたしました。

「良寛の里」オープンの翌日(1991年4月15日)、作品のアルバムを持って和島を訪れました。といいますのも、和島におかれましては地域づくりの基本として、文化の香り高い田園都市芸術郷をめざして「良寛の里」をつくられたことに感銘したからです。

地域を挙げて私の考えにご賛同をいただき、皆様のご協力のもとに建設用地として此の地を調達、造成し提供して下さることになり、和島の芸術文化に対する熱意と私への好意に感じ入り、のどかなこの地に美術館を建設させていただくことに決心いたしました。

美術館のレイアウト並びに設計につきましては、多くの美術関係者からの助言を受け、それを参考にしながら進めることが出来ました。

美術館の規模は建築面積350.26平方メートル、建築床面積330.45平方メートル。外観は室内展示作品との調和を表現したつもりです。

ロダン及び高村光太郎をはじめとする20世紀日本の代表的な具象彫刻家15名の作品27点と絵画11点を美術館の建物と共に、ここに寄贈いたしました。

ようやく無事に開館を迎えることができ、私は今、高村光太郎の「智恵子抄」の「裸形」の詩にある「……智恵子の裸形をこの世にのこしてわたくしはやがて天然の素中に帰らう。」と同じ心境であります。

この菊盛記念美術館が皆様より永遠に愛され、鑑賞されることを祈念いたします。感謝。

1994年5月20日

菊盛 嘉雄

表紙  
朝倉響子(SUSAN)



## 菊盛記念美術館

kikumori Memorial Museum of Art

住所  
〒949-4525  
新潟県長岡市島崎3938番地  
(良寛の里美術館隣接)  
電話0258(74)3700(代)

開館時間  
午前9時～午後5時

休館日  
年末年始

入館料  
大人(高校生以上)=400円  
小人(小・中学生)=250円  
(20名以上は100円引き)  
良寛の里美術館との共通入館料  
(上記金額の50円引き)

交通案内  
(JR利用)  
■越後線・小島谷下車徒歩15分  
■上越線/上越新幹線・長岡駅下車バス1時間  
(自動車利用)  
■北陸自動車道・中之島見附ICより20分  
西山ICより30分  
■関越自動車道・長岡ICより40分



## 菊盛記念美術館

kikumori Memorial Museum of Art





高村光太郎《裸婦坐像》



オーギュスト・ロダン《蛇と少女》



山本正道《思い出》



柳原義達《道標・鳩》



柳原義達《道標・鳩》

## 所蔵品目録

作家名	作品名	制作年	材質	サイズ(cm)
[洋画・日本画] オーギュスト・ロダン	蛇と少女 <i>Jeune fille au serpent</i>	1885	ブロンズ	高さ×横幅×奥行 33×12×14
	三体の人物像のある門(レリーフ) <i>Petite bas relief la porte avec trois personnages superposés</i>	1900	ブロンズ	27.3×6.5×3
高村光太郎	裸婦坐像	1916	ブロンズ	27.5×13.5×14.5
	みちのく	1953	ブロンズ	108×106×32
木内 克	トルソー	1962	テラコッタ	22.5×10.5×15
	坐像	1963	テラコッタ	17.5×19×10
清水多嘉示	コスチュームの少女	1930	ブロンズ	40×20×19
	みどりのリズム	1951	ブロンズ	38.5×30×15.3
柳原義達	バルザックのモデルたりし男	1957	ブロンズ	43×23×29
	道標・鳩	1967	ブロンズ	65×62×25
	道標・鳩	1973	ブロンズ	41×52×28
淀井敏夫	ナイルの子供*	1973	ブロンズ	31×37.5×23
	牛と女と地中海	1975	ブロンズ	52×65×31
舟越保武	少年と海鳥	1987	ブロンズ	99×31×21.5
	LOLA	1974	ブロンズ	30×17×26
	茉莉花	1978	ブロンズ	51.5×16×11.5
	EVE	1986	ブロンズ	194×58×56
佐藤忠良	水*	1956	ブロンズ	25×19×21.5
千野 茂	やすらぎ	1979	ブロンズ	37×24×24
伊東 傀	水着の女	1987	ブロンズ	83.5×24×19
朝倉響子	Face L	1984	ブロンズ	29×18×21
	SUSAN	1985	ブロンズ	55×36×30
細川宗英	王妃像	1984	ブロンズ、手彩色	40×12.5×9
山本正道	思い出	1988	ブロンズ	90×40×46
	二本の樹*	1991	ブロンズ	27×19×8
綿引道郎	恬淡	1990	コールドレン銅	51×24×46
柘植猛志	ファッション'94*	1993	白大理石	146.5×37×28.5
				*印は追加寄贈作品(1988年7月)
[洋画・日本画]				縦×横
長谷川利行	女の顔		油彩	8.2×6.3
田村考之介	画室の裸婦	1980	油彩	91×116.7
海老原喜之助	水ぬるむ		油彩	27×22
伊藤清永	鏡		油彩	53.2×41
糸園和三郎	前向きの裸婦	1981	ガラス絵	27.8×22.8
福井良之助	京風	1974	油彩	41×32
	三本のポプラ		油彩	24×33.5
奥谷 博	サイネリア	1981	油彩	53×45.5
室越健美	異郷の花(花がすみ)	1983	テンペラ、油彩	45.5×53
金島桂華	白梅		日本画	36×7.4
伊藤深水	八重紅梅		日本画	40.8×31.7



佐藤忠良《水》



高村光太郎《みちのく》

## コレクション概要

遙か越後平野を展望し、その象徴である弥彦山を遠望する水田地帯に浮かぶ小高い丘の上に、菊盛記念美術館は毅然たる態度で凛々しい姿を見せている。その昔、良寛和尚が晩年を過ごしたことで、今もその足跡を多く残しているこの地に1991年、良寛の里が開かれた。その隣接地に新潟県出身の菊盛嘉雄氏が長年にわたって蒐集した彫刻と絵画のコレクションを、その瀟洒な佇まいの建築物とともに和島村(現長岡市)に寄贈されることとなった。

彫刻を中心としたコレクションの構成は、一望するだけで日本近代具象彫刻の系譜を概観することができるだろう。

まず古代ギリシャ以来の西洋彫刻の伝統を踏まえ、生の人間の肉体を清新な感性によって捉えて彫刻の存在を目覚めさせ、近代彫刻の祖とも謳われるオーギュスト・ロダン。《蛇と少女》《三体の人物像のある門(レリーフ)》は、ロダン終生の大作《地獄の門》のモチーフである。この二点からは内なる魂が湧流ににじみ出ている。

そのロダン芸術を、伝統彫刻と西洋リアリズムが揺れ動く日本の彫刻界に紹介し、自らも近代彫刻論を展開しながら塑像や木彫、詩を制作しつづけた高村光太郎。その代表作《裸婦坐像》からは裸婦の本源的な美しさを改めて感じることができる。《みちのく》は《十和田国立公園功労者顕彰記念碑》として十和田湖畔に建てられ、亡き妻智恵子の面影が刻まれている。

ロダンの弟子或いは協力者として近代彫刻界に大きな足跡を残したプーデルの門下に木内克、清水多嘉示がいた。木内克は渡欧後、単純素朴なギリシャのアルカイック彫刻に傾倒しテラコッタの技法を習得した。《トルソー》《坐像》にはエーゲ海の神秘的な神聖性と自由奔放さのうちに日本的な情感が内在している。清水多嘉示は渡仏の際、プーデルの《アルヴェール將軍騎馬像》を見て圧倒され、そのまま彼の門を叩いて、その造形思考を学んだ。帰国後は日展の指導者としてプーデル芸術を実践的に伝播していった。《コスチュームの少女》の穏やかな安定感、《みどりのリズム》の躍動的な構築性には師の教えが脈々と息づいている。

やはりプーデルの《アルヴェール將軍騎馬像》を見て彫刻家を志した柳原義達は、東京美術学校在学中より清水多嘉示や高村光太郎が指導する国画会に出品していた。その後舟越保武とともに新制作派協会彫刻部の設立に参加し具象彫刻の革新、の道を歩み始めた。そして四十歳を過ぎてから渡仏し、造形の基本から学び直した。裸婦像では人間存在の深淵に肉薄し、鳩、鳩がモチーフの「道標」シリーズでは鳥の一瞬の動作に見られる緊張感が圧倒的な存在で見るものに語りかけてくる。

その柳原義達とともに戦後の日本彫刻界を担ってきた舟越保武は、熱き信仰のもとに心血を注いだ《長崎26聖人殉教者記念像》《原の城》などの代表作とともに、その気高い精神性で感情表現を抑制した《LOLA》や《EVE》等の気品高い女性像を残してきた。その他、独特の肌合いとモチーフで特異な表現を示す淀井敏夫の《牛と女と地中海》、あくまで日本の女性の真実の姿を追求する千野茂の《やすらぎ》がある。戦後のイタリア具象彫刻界の潮流を消化し、現代に生きる女性像の中に結実させた伊東傀、女性の動きと心理のからみを女性ならではの感性でとらえる朝倉響子等の作品も陳列されている。

このように、菊盛コレクションには、ロダンの影響下に始まった日本の近代以降の具象彫刻史に欠かせぬ彫刻家たちの作品が絵画とともに蒐集され、ゆったりと展示されている。芸術に対する先達たちの長く険しい真摯な取り組みの結晶を、信濃川の流れるように悠久の時を刻むこの土地で堪能されてはいかがだろうか。

